

授業科目名	比較文化論	単位数	2
担当教員名	伊藤 玄二郎	担当形態	単独
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 ・ 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 文化における比較論とは (2) 天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ (3) 大黒屋光太夫とロシア (4) ジョン万次郎とアメリカ (5) 岩倉具視の見た世界の中の日本 (6) 森鷗外のみたドイツそして日本 (7) 福祉に見る日本とフィンランド 			
<p>授業の概要</p> <p>人・モノ・社会を物差しに文化を考える。わけても、日本から見た外国、外国から見た日本を時系列に望見してみる。文明は時に連れて発展をとげている。しかし、文化は進化しているか。人間は進化しているか。政治、社会、風俗に焦点をあて、複眼で二つの事象を見てみたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：文化における比較とは</p> <p>第2回：新しい文化との出会い 禅と仏教</p> <p>第3回：新しい文化との出会い 禅と武家社会</p> <p>第4回：初めての西洋との出会い 鉄砲伝来・キリスト教伝来</p> <p>第5回：天正遣欧少年使節団の見たヨーロッパ</p> <p>第6回：初めての西洋との出会い キリスト教伝来と潜伏キリシタン</p> <p>第7回：シーボルトと日本</p> <p>第8回：大黒屋光太夫とロシア</p> <p>第9回：ジョン万次郎とアメリカ</p> <p>第10回：日本の開国をめぐるエピソード (MCペリーが見た日本)</p> <p>第11回：岩倉具視が読んだ世界の地図</p> <p>第12回：森鷗外のみたドイツそして日本</p> <p>第13回：雑誌「白樺」を通して明治時代の文化芸能を見る</p> <p>第14回：教育と福祉に見る日本とフィンランド</p>			

第15回：石原慎太郎「太陽の季節」と戦後の社会風俗、現代の若者の意識を考える
定期試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングの期日前後の社会状況の中から、シラバスに関する事項を取り上げ、学生の皆さんと比較議論する。

(主に、第8回、第9回、第10回の内容を含む。)

テキスト

(1) 近藤 誠一『文化外交の最前線にて』かまくら春秋社 2008年

(2) 近藤 誠一『世界に伝える日本のこころ』星槎大学出版会 2016年

参考書・参考資料等

近藤 誠一『パリ マルメゾンの森から』かまくら春秋社 2005年

その他、時代とジャンルが多岐にわたるのでシラバスにそって適宜、参考資料を紹介する

学生に対する評価

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合して評価する。